

「揺り動かされることのない御国を」

(ヘブル 12:28)

このように、わたしたちは揺り動かされることのない御国を受けているのですから、感謝しよう。

感謝の念をもって、畏れ敬いながら、神に喜ばれるように仕えていこう。

Therefore, since we are receiving a kingdom that cannot be shaken, let us be thankful, and so worship

God acceptably with reverence and awe.

現在の日本は、かつてないほど「揺り動かされる」状況になっている。物理的にも、頻繁に地震というかたちで揺り動かされている。1980年からの20年間で、マグニチュード5.5以上の地震が発生した回数は、原発を全面的に停止すると決めたドイツと比べると、およそ23倍となっている。それが、最近では、先ごろの東北大地震関連の余震もあり、さらに多くの地震が発生している。

主イエスが、世の終わりにどんなことがおきるかと問われて、「民は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に飢饉や地震が起こる」(マタイ24の7)と言われた。

そうでなくとも、この世は絶えず誰も予想できないことが生じるから、いつもそうした出来事で私たちは揺り動かされる。個人的にも病気や事故、あるいは仕事や人間関係での問題が生じて、それは私たちの心を大きく揺り動かすものとなる。

だからこそ、この聖句にあるように、私たちはいかなることが生じようとも決して動かされないものを見つめ、しっかりと頼っていく必要がある。それは、神であり、また神が私たちのために遣わされたキリストであり、神の国である。

そのような不動の岩のごとき神の国はどこにあるのか。主イエスは、「神の国は、あなた方のただなかにある。」(ルカ17の21)と言われた。私たちのこの現実の生活のただなか、また一人一人の心の中に、キリストを信じる人たちの集まりのなかにある、ということである。世の終わ

り、キリストの再臨のときにこそ、完全な神の国となるのは予告されている。しかし、この混沌とした地上においても、信じる者にはこのようにすぐ近くにあると、主イエスは言われた。

その揺るぐことのない神の国がそのように近くにあるからこそ、主イエスは、「求めよ、そうすれば与えられる」と約束されたのである。

「あなた方は御国を受け継ぐという報いを主から受けることを知っている。」(コロサイ書 3 の 24)

しかし、ときどきキリスト者にも、こうした神の国のことを忘れ、この世の揺れ動く力に巻き込まれることがある。それゆえにこそ、私たちは毎週の主の名による集会により、祈りにより、また賛美によって常にこの御国のこと、その約束のことを共に思い起こし、そこから新たな力を日々受けていきたいと願う。



ニリンソウ(二輪草) キンポウゲ科伊吹山 011.6.2

このニリンソウは、伊吹山(標高 1377m)の頂上に近い一帯でたくさん咲いています。このように、茎を取り巻く葉から一つ、または二つの花が咲きます。草丈は 20cm 前後、花の大きさは 2cm ほどで、多くは白色ですが、このようにうっすらと赤くなるものもあります。

樹林の下草のように、群生しています。まだ、ほかの多くの野草たちは、新芽をどんどん伸ばし、夏に花を咲かせるための成長期にあり、花を咲かせているのはこのニリンソウやイチリンソウ、あるいはユキザサ、イブキガラシなど少ない時期です。

この花は、春の花らしい繊細さ、静けさをたたえた花で、山麓では、3月から咲き始め、春の到来を告げる花として愛されています。頂上に近いところでは、平地より 8 度ほど気温が低く、まだ平地の春のような状態なので、この花も多く咲いています。

こうした野草の姿は、その清い美しさによって私たちに神の国を指し示す花として感じられます。(写真、文: T.YOSHIMURA )